

ぶどう（特に露地栽培）べと病に注意！

1 発生と今後の状況

- 今年は平年より大幅に早い梅雨入りとなり、一部地域では既にべと病の発生が確認されている。
- 向こう1か月の降水量も、多い確率50%と予想されており、今後の発生に注意が必要である。



図1 ぶどう葉表の病斑（発生初期）



図2 ぶどう葉裏の白いカビ

2 防除方法

- べと病は、降雨の多い時期に露地栽培で発生しやすく、一度発生すると急速に被害拡大することが多いため、園地の見回りをこまめに行い、発生初期に防除することが重要である。
- 施設栽培でも雨のかかりやすい場所では発生しやすく、注意が必要である。
- 発生園地では、使用時期に注意し薬剤防除を行う（表1参照）。
- 発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。
- Qol（FRAC：11）の耐性菌が生じている園地では使用しない。その他の園地でも、1作1回程度の使用に努める。
- 発生園地では、収穫後にも防除を行う（表2参照）。

表1 収穫前の代表的な防除薬剤

薬剤名	FRAC	希釈倍数（倍）	使用時期	本剤の使用回数
ライメイフロアブル	21	3,000～4,000	収穫14日前まで	3回
エトフィンフロアブル	22	1,000	収穫7日前まで	4回
レーバスフロアブル	40	2,000～3,000	収穫7日前まで	3回

※一般に小豆大以降の散布では果粉溶脱のおそれがあるので注意する。

表2 収穫後の防除薬剤

薬剤名	FRAC	希釈倍数（倍）	使用時期	本剤の使用回数
I Cボルドー66D	M1	25～100	—	—
I Cボルドー48Q	M1	25～50	—	—

※デラウェアでは66D、大粒系品種では48Qを使用する。

- Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
- 農林水産省 農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)